

2005年度秋季大会シンポジウム 「大規模観測プロジェクトは気象学 に何をもたらすか」の報告

はじめに

石川 裕彦*

ここ10年ほどの間に、観測を主体としたさまざまな大規模プロジェクトが実施されるようになってきた。GAME「GEWEX アジアモンスーンエネルギー・水循環観測研究」とこれに引き続くCREST等によるエネルギー水循環観測研究、科学技術振興調整費によるADEC「風送ダストの大気中への供給量評価と気候への影響に関する研究」、科学技術振興機構戦略的基礎研究による「メソ対流系の構造と発生・発達メカニズムの解明」、科学研究費によるCPEA「赤道大気上下結合」、などが最近終了、あるいはシンポジウム実施時点で進行中であった。また、総合科学技術会議が決定した「地球観測の推進戦略」に基づき、文部科学省の地球観測システム構築推進プランにより新たな観測計画が開始されようとしており、世界的にはWMOの研究計画としてTHORPEXが提案され、日本でもこれに向けた準備が進んでいる。本シンポジウムは、第一には、このような大規模観測プロジェクトにより、何が明らかになり、どんな新しい事実が発見され、それが理論やモデル研究にどのようなインパクトを与えたか、あるいは与えたと期待されるのかを、検証するために企画した。

これら大規模プロジェクト推進には、予算獲得からコーディネーション、最後には外部評価への対応まで、多大な労力を要する。昨今の「競争的資金」時代

において、気象学会員が自分のやりたいことの予算を能動的に獲得しようとする場合、何がポイントで、何が学会全体を考えると重要なのか、また大規模観測が気象学会にどんな波及効果を及ぼすかなどを、皆で考える機会にしたいというのが、本シンポジウムを企画した第二の意図である。

本シンポジウムでは、下記の基調講演が行われた。最初の5件は、上に挙げた最近のあるいは計画中のプロジェクトに基づいた講演で、それぞれリーダーに講演頂いた。最後に、総合科学技術会議において「地球観測の推進戦略」の取りまとめに尽力された笹野会員に講演頂いた。

1. 国際研究プロジェクトとは何だろうか？
—GAMEから学んだこと—
安成哲三（名古屋大学地球水循環研究センター、海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター）
2. 大規模気象観測プロジェクトとメソ気象
吉崎正憲（気象研究所予報研究部）
3. 風送ダストの大気中への供給量評価と気候への影響に関する日中共同研究（ADEC）
三上正男（気象研究所環境応用気象研究部）
4. 赤道大気上下結合
深尾昌一郎（京都大学生存圏研究所）
5. THORPEX（観測システム研究・予測可能性実驗計画）
余田成男（京都大学大学院理学研究科）
6. これからの地球観測

* 京都大学防災研究所。

ishikawa@storm.dpri.kyoto-u.ac.jp

—2006年7月20日受領—

—2006年11月30日受理—

笹野泰弘（国立環境研究所大気圏環境研究領域）

どの講演も、各プロジェクトに関する様々な側面からの話にとどまらず、気象学における大規模観測プロジェクトはどうあるべきかに問いを投げかける、示唆に富む話となった。

最後に総合討論を行った。講演内容の豊富さを反映し、活発な議論が行われた。研究面では、観測研究とモデリングにおけるニーズが乖離していないかと問う議論があり、それに応じて、計画中の THORPEX に代表されるモデリング先導型の観測プロジェクトへの期

待などが議論された。研究ベースの気象観測を気象現業にどうつなげるかも問いかけられた。一方、プロジェクトで得られたデータの行方についても活発な議論が行われた。最終的には公開し長く活用されるようにすべきという認識は一致してみられたが、それをどう実現するかが大きな問題として挙げられ、共通のセンターをつくるべきという提案もあった。また、最近の大規模観測は公募型の競争的資金による場合が多いが、これがどのくらい本当に競争ベースであるのかという問いかけや、プロジェクトとして成果を出していくことと個々の研究者、とりわけ若手の育成の両立の問題など、議論百出の充実した討論が行われた。

What Do BIG Observation Projects Bring to Us ? : A Report on the Symposium of the 2005 Fall Assembly of the Meteorological Society of Japan

Hirohiko ISHIKAWA*

* *Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University. Gokasho, Uji,
Kyoto 611-0011, Japan.
ishikawa@storm.dpri.kyoto-u.ac.jp*

(Received 20 July 2006 ; Accepted 30 November 2006)

Contents

1. Tetsuzo YASUNARI : How Should We Proceed with International Research Projects ?
—What We Have Learned from GAME—.
 2. Masanori YOSHIZAKI : Extended Observations and Mesoscale Disturbances.
 3. Masao MIKAMI : A Japan-Sino Joint Project ADEC (Aeolian Dust Experiment on Climate Impact).
 4. Shoichiro FUKAO : Coupling Processes in the Equatorial Atmosphere (CPEA).
 5. Shigeo YODEN : THORPEX (The Observing System Research and Predictability Experiment).
 6. Yasuhiro SASANO : Earth Observations in the Coming Decades.
-